

資料5－別添1

(提案1)

【幹事会附置委員会】

○委員の決定（追加1件）

（東日本大震災に係る学術調査検討委員会）

氏名	所属・職名	備考	推薦
佐藤 岩夫	東京大学社会科学研究所教授	第一部会員	第一部
山下 俊一	長崎大学理事・副学長	第二部会員	第二部
和田 章	東京工業大学名誉教授	第三部会員	第三部

(提案2)

○委員の決定（新規1件）

（フューチャー・アースの推進に関する委員会 持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会）

氏名	所属・職名	備考	推薦
武内 和彦	東京大学国際高等研究所サステイナビリティ学連携研究機構機構長・教授	第二部会員	第二部
花木 啓祐	東京大学大学院工学系研究科教授	第三部会員	第三部
氷見山幸夫	北海道教育大学教育学部教授	第三部会員	第三部
井田 仁康	筑波大学人間系教授	連携会員	副会長
中静 透	東北大学大学院生命科学研究科教授	連携会員	第二部
宮寺 晃夫	筑波学院大学経営情報学部教授	連携会員	第一部
毛利 衛	独立行政法人科学技術振興機構日本科学未来館館長	連携会員	副会長
山形 俊男	独立行政法人海洋研究開発機構アプリケーションラボ所長、東京大学名誉教授	連携会員	第三部

(提案3)

分野別委員会運営要綱(平成26年8月28日日本学術会議第199回幹事会決定)の一部を次のように改正する。

改正後					改正前					
別表第1					別表第1					
分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考	分野別委員会	分科会等	調査審議事項	構成	備考	
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	
物理学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	物理学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	
	物理学委員会物理学分野の参照基準検討分科会	物理学分野の大学教育についての参照基準の審議に関すること	10名以内の会員又は連携会員	設置期間:平成27年4月24日~平成29年9月30日		(新規設置)				
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	
総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	総合工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)	
総合工学委員会	総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会	フロンティア人工物分野に関すること	25名以内の会員又は連携会員		総合工学委員会	総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会	フロンティア人工物分野に関すること	25名以内の会員又は連携会員		
	総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会フロンティア人工物ビジョン小委員会	1. フロンティア人工物分野の将来像および研究計画に関する、シンポジウムの企画と調整 2. 同将来像および研究計画に関する、関連学協会との協議 3. 同将来像および研究計画に関する、大型研究計画提案に向けた提案者との折り合わせ協議 4. 同将来像および研究計画に関する、提言発出に向けた、分担の調整と修文に係る審議に関すること	15名以内の会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者			(新規設置)				
	(略)	(略)	(略)	(略)		(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会	計算科学シミュレーション技術基盤に関すること		35名以内の会員又は連携会員		総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会	計算科学シミュレーション技術基盤に関すること		35名以内の会員又は連携会員		
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	

	総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会計算音響学小委員会	1. 計算音響学についての事例を分野横断的に議論する。 2. 計算音響学についての将来のあり方を検討する。 3. 関連する報告書をまとめる。 に係る審議に関すること	25名以内の 会員、連携会 員又は会員若 しくは連携会 員以外の者	
	(略)	(略)	(略)	(略)
機械工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会	総合工学委員会に記載	総合工学委員会に記載	
	総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会フロンティア人工物ビジョン小委員会	総合工学委員会に記載	総合工学委員会に記載	
	(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

	総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会計算音響学小委員会	1. 計算音響学についての事例を分野横断的に議論する。 2. 計算音響学についての将来のあり方を検討する。 3. 関連する報告書をまとめる。 に係る審議に関すること	15名以内の 会員、連携会 員又は会員 若しくは連携 会員以外の 者	
	(略)	(略)	(略)	(略)
機械工学委員会	(略)	(略)	(略)	(略)
	総合工学委員会・機械工学委員会合同フロンティア人工物分科会	総合工学委員会に記載	総合工学委員会に記載	
	(新規設置)			
	(略)	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

附 則
この決定は、決定の日から施行する。

物理学委員会分科会の設置について

分科会等名： 物理学分野の参照基準検討分科会

1	所属委員会名	物理学委員会
2	委員の構成	10名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	平成20年5月に文部科学省高等教育局長から、「大学教育の分野別質保証の在り方について」審議するよう依頼を受けた学術会議は、審議を重ね、平成22年7月に回答「大学教育の分野別質保証の在り方について」をとりまとめた。その回答の中で、分野別質保証のための手法として、分野別の教育課程編成上の参照基準を策定することが提案された。これを受けて、物理学分野について大学教育課程編成上の参照基準を策定するために、本分科会を設置する。
4	審議事項	物理学分野の大学教育についての参照基準の審議に関する こと。
5	設置期間	時限設置 平成27年5月22日～平成29年9月30日 常設
6	備考	※新規設置

総合工学委員会・機械工学委員会合同
フロンティア人工物分科会小委員会の設置について

分科会等名：フロンティア人工物ビジョン小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○総合工学委員会 機械工学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者
3	設置目的	<p>航空・宇宙、船舶・海洋分野等での到達範囲の限界域は「フロンティア」と呼ばれ、総合工学委員会の下、当分科会が、到達能力の獲得をテーマとした研究活動について、関連学協会と連携しつつ、その将来像を探り、獲得に必要な環境整備や体制および研究計画の策定を検討してきた。</p> <p>この分野は、月惑星探査や海洋・深海探査を包含し、「行ける能力」の獲得に続いて、「行けた能力」を以って、太陽系や生命の起源に関わる理学研究や、その他の産業等の利用・応用の機会を提供し、現在地球および人類が直面しているエネルギー、環境問題の解決や、大地震などの防災にも貢献し、安全・安心で豊かな生活の実現、そして人類の持続性確保に通ずる能力を供給する。</p> <p>我が国における研究環境は、経済・社会情勢を反映して、視点の近い出口戦略を強調される状況に置かれる傾向にある。本ビジョン小委員会では、フロンティアへ到達させる能力の獲得という主題を改めて確認し、その目的を第一部・第二部研究者とも共有し、現状の研究推進の制度や方策における問題点を抽出して、推進戦略や新制度の設置と推進方策の改善を検討することを目的とする。その過程で、シンポジウムを開催するとともに、最終成果を新たな提言にて発出することをアウトプットとして目指す。</p>
4	審議事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. フロンティア人工物分野の将来像および研究計画に関する、シンポジウムの企画と調整 2. 同将来像および研究計画に関する、関連学協会との協議 3. 同将来像および研究計画に関する、大型研究計画提案に向けた提案者との摺り合わせ協議

		4. 同将来像および研究計画に関する、提言発出に向けた、分担の調整と修文
5	設置期間	時限設置 平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日
		常設
6	備考	※新規設置

総合工学委員会・機械工学委員会合同
計算科学シミュレーションと工学設計分科会小委員会の設置について

分科会等名：計算音響学小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○総合工学委員会 機械工学委員会
2	委員の構成	25名以内 の会員、連携会員又は会員若しくは連携会員以外の者
3	設置目的	<p>音響学は、音の発生、音の伝播、聴覚器官による音響感覚、音楽、騒音等、音に関するあらゆる現象を扱う学問である。その領域は物理学・工学・心理学・生理学など多くの分野にわたり総合科学の一つである。近年、コンピュータの発達により計算音響学に関する研究が多くの分野で行われるようになった。例えば、スーパーコンピュータを用いて「コンサートホールの音響を完全にシミュレートする」といった研究がなされている。また、車の騒音に関しては空力音響シミュレーションが重要であり、物体表面の周囲で起こる音の発生と伝播についてのシミュレーションが行われている。さらに、楽器に関する研究として、ピアノの発音機構をモデル化する技術が精力的に研究されている。従来経験に頼ることの多かったピアノの設計をコンピュータシミュレーションの技術を用いて、より合理的に進めることがその目的である。しかし、これらの諸分野の研究開発はそれぞれが個別的になされており相互の連携が不十分である。</p> <p>ここでは、シミュレーション分野でも比較的若くまだ今後発展の余地が多く残されている計算音響学について分野横断的に議論し将来のあり方を検討する。</p>
4	審議事項	<p>計算音響学についての事例を分野横断的に議論する。</p> <p>計算音響学についての将来のあり方を検討する。</p> <p>関連する報告書をまとめる。</p>

5	設 置 期 間	時限設置 平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日
		常 設
6	備 考	※委員の構成の変更 (審議内容の多様化を踏まえ、定員を増員する必要があるため。)

【分野別委員会】

○委員の決定（新規1件）

（総合工学委員会 総合工学企画分科会）

氏名	所属・職名	備考
新井 民夫	芝浦工業大学教育イノベーション推進センター教授	第三部会員
有信 睦弘	国立研究開発法人理化学研究所理事、東京大学監事	第三部会員
大野 英男	東北大学電気通信研究所所長・教授	第三部会員
川口淳一郎	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究 所宇宙飛翔工学研究系教授・シニアフェロー	第三部会員
小長井 誠	東京都市大学総合研究所特任教授	第三部会員
五神 真	東京大学総長	第三部会員
鈴置 保雄	名古屋大学副総長・大学院工学研究科教授	第三部会員
中村 崇	東北大学多元物質科学研究所教授	第三部会員
萩原 一郎	明治大学研究・知財戦略機構特任教授、先端数理科学イ ンスティテュート副所長	第三部会員
波多野睦子	東京工業大学大学院理工学研究科教授	第三部会員
藤井 孝藏	東京理科大学工学部経営工学科教授	第三部会員
保立 和夫	東京大学理事・副学長、大学院工学系研究科教授	第三部会員
松尾由賀利	法政大学理工学部教授	第三部会員
松岡 猛	宇都宮大学基盤教育センター非常勤講師	第三部会員
松本洋一郎	東京大学理事・副学長、大学院工学系研究科教授	第三部会員
渡辺美代子	国立研究開発法人科学技術振興機構執行役	第三部会員
荒川 泰彦	東京大学生産技術研究所教授・ナノ量子情報エレクトロ ニクス研究機構長	連携会員
河田 聡	大阪大学大学院工学研究科教授	連携会員
後藤 俊夫	中部大学副学長	連携会員
柴田 徳思	株式会社千代田テクノ大洗研究所研究主幹、東京大学 名誉教授、公益社団法人日本アイソトープ協会専務理事	連携会員
原 辰次	東京大学大学院情報理工学系研究科システム情報学専 攻教授	連携会員
矢川 元基	公益財団法人原子力安全研究協会理事長、東京大学名誉 教授	連携会員
吉村 忍	東京大学大学院工学系研究科副研究科長・システム創 成学専攻教授	連携会員

【小委員会】

○委員の決定（追加8件）

（地域研究委員会 アジアの地域協力の学術的ネットワーク構築分科会）

氏名	所属・職名	備考
小浜 正子	日本大学文理学部教授	連携会員

（基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 ワイルドライフサイエンス分科会）

氏名	所属・職名	備考
平田 聡	京都大学野生動物研究センター教授	連携会員

（基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同 パブリックヘルス科学分科会）

氏名	所属・職名	備考
村嶋 幸代	大分県立看護科学大学学長	連携会員

（健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会）

氏名	所属・職名	備考
福永 哲夫	鹿屋体育大学学長	連携会員

（基礎医学委員会・臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同 医学分野の参照基準検討分科会）

氏名	所属・職名	備考
矢野 栄二	帝京大学大学院公衆衛生学研究科教授	連携会員

（情報学委員会 e-サイエンス・データ中心科学分科会）

氏名	所属・職名	備考
有田 正規	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所生命情報研究センター教授	連携会員
椿 広計	統計数理研究所副所長、教授	連携会員

(情報学委員会 環境知能分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
大柴小枝子	京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科教授	連携会員

(法学委員会・経済学委員会・土木工学・建築学委員会合同 知的生産者の公共調達検討分科会)

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
金本 良嗣	政策研究大学院大学教授・学長補佐	連携会員

【小委員会】

○委員の決定（新規3件）

（地域研究委員会 地域学分科会 市民地域学課題検討小委員会）

氏名	所属・職名	備考
岩本 通弥	東京大学大学院総合文化研究科教授	連携会員
鈴木 正崇	慶應義塾大学文学部教授	連携会員

（総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会 エネルギーガバナンス小委員会）

氏名	所属・職名	備考
大政 謙次	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	第二部会員
大久保泰邦	国立研究開発法人産業技術総合研究所地質分野研究企画室連携主幹	連携会員
佃 栄吉	国立研究開発法人産業技術総合研究所理事	連携会員

（環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同 低炭素・健康社会の実現への道筋と生活様式・消費者行動分科会 低炭素・健康社会都市小委員会）

氏名	所属・職名	備考
浅見 泰司	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授	連携会員
伊香賀俊治	慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科教授	連携会員
柏木 孝夫	東京工業大学ソリューション研究機構特命教授	連携会員
坂井 文	北海道大学大学院工学研究院准教授	連携会員
林 良嗣	名古屋大学大学院環境学研究科教授	連携会員
福井 秀夫	政策研究大学院大学教授	連携会員

○委員の決定（追加1件）

（ 総合工学委員会・機械工学委員会合同 計算科学シミュレーションと工学設計分科
会 計算音響学小委員会 ）

氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
萩原 一郎	明治大学研究・知財戦略機構特任教授・先端数理科学 インスティテュート副所長	第三部会員
大富 浩一	東京大学大学院工学系研究科精密工学専攻特任研究員	連携会員

提案4～6は提言等関係のため別添2～4を御覧ください。

提案7は別添なし。

(提案8)

第15回アジア学術会議 (15th Science Council of Asia Conference) への外国人の招聘者を追加することについて

○外国人招へい者 (追加)

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
3	第15回アジア学術会議年次会合	5月15日 ～ 5月17日	3日	シェムリアップ カンボジア	Ms.keophayvanh Douangsavanh Permanent secretary of Lao Academy of Science and Technology (ラオス)	加盟予定機関代表として参加するため

【派遣者の確定】

○外国人招へい者

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣者 (職名)	備考
			計			
1	第15回アジア学術会議年次会合	5月15日 ～ 5月17日	3日	シェムリアップ カンボジア	Dr. Anwar Nasim President, Pakistan Academy of Sciences (PAS) (パキスタン)	加盟予定機関代表として参加するため
2	第15回アジア学術会議年次会合	5月15日 ～ 5月17日	3日	シェムリアップ カンボジア	Dr. Rajendra Prasad Vice President, Indian National Science Academy (インド)	加盟予定機関代表として参加するため

※ 第210回幹事会で決定した派遣者(2名)のうち、インドからの派遣者が変更。

(提案9)

日本学術会議協力学術研究団体への新規申込みがあった団体の概要

団体名	概要
全国公衆衛生関連学協会連絡協議会	公衆衛生関連領域における学術と研究の発展を目指すために、学協会等との相互交流と連携を図る。学協会等の連合組織として、日本学術会議との交流・相互協力を行うことにより、各学協会では対応が難しい学術研究の成果を社会に還元する諸活動と、国や社会に必要な提言や働きかけを行う。
日本周産期メンタルヘルス学会	周産期精神科学の分野では精神疾患の診断、治療、予防的介入に関する本格的な研究活動は未整備である。全国的にみても周産期医療に対するメンタルヘルスの専門的体制は整えられていない上、出産年齢の高齢化、少産化が急速に進んで、いわゆる「ハイリスク妊娠」に対するメンタルヘルス面での関与が重視されている。本学会は、周産期の精神疾患の特定を病態発生、疫学、生物学、社会心理学、社会学など多角的な視点からとらえて、その実態を明らかにして、学問的検討を重ね、治療的介入、予防的介入を目的に活動する。

公開シンポジウム「地域史料に未来はあるか？
—史料の保存利用と地域のアイデンティティー—」の開催について

1. 主催：日本学術会議史学委員会、同歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会、日本歴史学協会
2. 日時：平成27年6月27日（土）13：30～17：30
3. 場所：駒澤大学 駒沢キャンパス 1号館204教場
4. 委員会等の開催予定：開催予定なし

5. 開催趣旨：

いわゆる平成の大合併により地方自治体が広域化するにつれ、文化施設等が縮小・統廃合され、きめの細かい住民対応が困難なケースが現れている。大合併以降、旧自治体の行政文書は、適切に管理・保存されているであろうか。例えば、学校の統廃合による学校文書の現状はどうなっているのか。農山村の「過疎化」が問題になってから約半世紀、「限界集落」が指摘されてから四半世紀を経るなかで、静かに進行する「史料消滅」をくい止め、地域史料の適切な保存利用を進めるための活動が必要となろう。

現状ではまだまだ不十分ながら、各地で史料保存利用施設の設置が進んできたことは、戦後の史料保存利用運動の成果として十分に評価されよう。しかし、自治体史の編纂などによって、一旦は地域史料の整理・保存の措置が取られても、地域に所在する史料については、その後のアフターケアが十分に行き届かず、適切な保存状態のもとにあるのかも十分に把握されていないケースも多い。平成の大合併によって、それは益々困難になっているように思われる。また、住民意識の面でも、家システムの変化・世代交代と古文書等の史料に対する意識の変化もあり、史料の所在状況が俯瞰しにくい状況にある。

時あたかも、阪神淡路大震災から20年が過ぎ、4年前には東日本大震災を経験した私たちは、救出された被災史料にとどまらず、被災地域の史料保存利用の現状を、地域社会の動向とともに検証することも必要ではないか。平成の大合併を経て、さらに「地方消滅」論が喧伝されるなか、地域のアイデンティティーを担保する地方行政文書も含む地域史料の保存利用はどのような状況

にあるのか、どのような取り組みがなされているのか。地域社会も変貌しているなかで、今あらためて地域史料の保存利用の未来を考えたい。

6. 次第

13：30～13：40

開会挨拶：若尾 政希*（日本学術会議連携会員、一橋大学大学院社会学研究科教授）

13：40～15：00

報告：①小林 准士（島根大学法文学部教授）

「島根県における地域資料をめぐる現状と保存問題」

②添田 仁（茨城大学人文学部准教授）

「過疎化する地域の歴史遺産－茨城史料ネットの活動を通して－」

③和崎光太郎（京都市学校歴史博物館学芸員）

「学校所蔵史料の保存と活用－京都市を事例として－」

15：00～15：20

全体コメント：

高埜 利彦*（日本学術会議第一部会員、学習院大学文学部教授）

15：20～15：30

閉会挨拶：廣瀬 良弘（日本歴史学協会会長、駒澤大学学長）

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の登壇者は、主催委員会等委員)

(提案 1 1)

公開シンポジウム「若者の投票率をいかに向上させるか～選挙権年齢 18 歳への引き下げに寄せて」の開催について

1. 主 催：日本学術会議政治学委員会、明治大学政治制度研究センター
2. 日 時：平成 27 年 7 月 18 日（土）14：00～17：30
3. 場 所：明治大学駿河台キャンパス・リバティタワー10 階 1013 教室
4. 分科会の開催：開催予定あり（同日 13：00～14：00）

5. 開催趣旨：

先の通常国会で、選挙権年齢を 18 歳へ引き下げる公職選挙法の改正案が可決、成立しました。平成 28 年夏の参院選はこの新たな制度の下、行われることとなります。一方で、各世代間でみた場合、若者の投票率の低さが従来から指摘されてきました。今回の引き下げで、それがいっそう深刻化するのではないかと懸念されます。いうまでもなく、世代間での投票率の著しい不均衡は、有権者が選出する代表者の不均衡につながり、それは政治のゆがみに直結します。

このシンポジウムでは、日本国憲法前文の第一文にある「日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し」を実質的に担保するために、若者の投票率をいかに向上させるかを考えていきます。

6. 次 第：

13:30 開場

14:00-14:05

趣旨説明 西川 伸一*（日本学術会議第一部会員、明治大学政治経済学部専任教授）

14:05-14:30 報告 1 「若者の投票率はなぜ低いのか」

中谷 美穂*（日本学術会議連携会員、明治学院大学法学部准教授）

14:30-14:55 報告 2 「日本学術会議提言『各種選挙における投票率低下への対応策』をどう生かしていくか」

小野 耕二* (日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院法学研究科教授)

14:55-15:20 報告3 「総務省の『投票環境の向上方策等に関する研究会』報告書をめぐって」

小谷 克志 (総務省自治行政局選挙部管理課選挙管理官)

15:20-15:45 報告4 「18歳を市民にするには～神奈川県立高等学校のキャリア・シチズンシップ教育の取り組み～」

黒崎 洋介 (神奈川県立湘南台高等学校教諭)

15:45-15:55 休憩

15:55-16:35

討論 (20分ずつ)

河野 武司* (日本学術会議連携会員、慶應義塾大学法学部教授)

谷口 尚子* (日本学術会議連携会員、東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻准教授)

16:35-17:15

全体討論

17:15-17:20

閉会あいさつ

西川 伸一* (日本学術会議第一部会員、明治大学政治経済学部専任教授)

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

(*印の登壇者は、主催委員会委員)

(提案12)

公開シンポジウム「暴走するコミュニケーション—虐待と暴力」の開催について

1. 主催：日本学術会議心理学・教育学委員会法と心理学分科会、社会のための心理学分科会、心理学・教育学委員会・臨床医学委員会・生活科学員会・環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同子どもの成育環境分科会子どもの成育環境分科会
2. 共催：公益社団法人日本心理学会、法と心理学会、文部科学省新学術領域「法と人間科学」
3. 日時・場所：
 - (1) 平成27年11月22日（日）13時00分～17時00分 東京大学
 - (2) 平成27年12月20日（日）13時00分～17時00分 京都女子大学
4. 分科会の開催：開催予定なし
5. 開催趣旨：

見知らぬ人に叩かれたら、私たちは「これは加害だ」「被害を受けた」と即座に判断するであろう。しかし、それがクラスメートやパートナー、あるいは親によるものであったらどうか。単なる遊び、愛情、しつけなのか、いや、いじめ、DV、虐待なのかと迷い、通告や発見が遅れるかもしれない。本来ならば共に生き・育ち、あるいは育み、慈しみ、愛情をそそぐべき関係性のなかで起きる「加害・被害」は、学級、夫婦、家族といった関係性を維持する枠組や期待のなかで、当事者にも周囲の者にも否認や矮小化の認知を引き起こす。このシンポジウムでは、いじめ、DV、虐待の実態やメカニズムにつきご報告いただき、どう気づくか、どう対応すればよいかを考える。

6. 次第

13:00 趣旨説明

仲 真紀子*（日本学術会議第一部会員、北海道大学大学院文学研究科教授）

13:10 「Cyberbullying（ネットいじめ）」（仮題）

Bauman, S.A. (Professor, University of Arizona, U.S.)

14 : 30 「学校内の暴力：いじめ」 (仮題)

戸田 有一 (大阪教育大学教育学部教授)

15 : 00 「家庭内の暴力：DV」 (仮題)

相馬 敏彦 (広島大学経済学部准教授)

15 : 30 「親子間の暴力：虐待」 (仮題)

大山みち子 (武蔵野大学人間科学部教授)

16 : 20 総合討論

内田 伸子* (日本学術会議連携会員、十文字学園女子大学人間生活学部特任教授)

16 : 40 閉会の辞

箱田 裕司* (日本学術会議第一部会員、京都女子大学教育学科教授)

7. 関係部の承認の有無：第一部、第二部承認

(*印の講演者等は主催分科会委員)

(提案13)

日本学術会議中部地区会議主催学術講演会「日本海地域の未来」の開催について

1. 主 催：日本学術会議中部地区会議
2. 共 催：富山大学
3. 日 時：平成27年7月17日（金）13：00～16：00
4. 場 所：富山大学五福キャンパス（富山市五福3190番地）
5. 次 第
 - (1) 13:00～13:10 開会挨拶
遠藤 俊郎（富山大学長）
 - (2) 13:10～13:20 主催者挨拶
高橋 雅英（日本学術会議中部地区会議代表幹事、名古屋大学大学院医学系研究科教授）
 - (3) 13:20～13:30 科学者との懇談会活動報告
丹生 潔（中部地区科学者懇談会幹事長、名古屋大学名誉教授）
 - (4) 13:30～15:55
 - ・講演「国土計画と日本海地域—過去、現在、未来」
大西 隆（日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）
 - ・講演「日本海の生き立ちと海底資源」
竹内 章（富山大学大学院理工学研究部教授）
 - ・講演「ラフカディオ・ハーン（小泉八雲）とフランス ～本学附属図書館『ヘルン文庫』から見えてくるもの」
中島 淑恵（富山大学人文学部教授）
 - (5) 16:00 閉会挨拶
調整中（富山大学）